

令和5年度

# 「アクションリサーチ(実習)」

## 実施要項

常葉大学大学院

初等教育高度実践研究科

# 令和5年度「アクションリサーチ（実習）」要項

## 1 本教職大学院で養成する教員像

本学の教職大学院は、初等教育課程に特化した「初等教育高度実践研究科」である。本学が目指すのは「挑戦心」「創造力」「理知的論理力」をもつ「総合的判断思考」ができる教員の育成である。

この具体的教員像は、①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③地域教育課題への対応力、④学校経営力・学級経営力、⑤生徒指導力・学習指導力を有する、確かな指導力と優れた実践力・応用力を備えた新人教員（学部卒学生）であり、スクーラーリーダー（現職教員学生）である。

## 2 アクションリサーチの目的

平成20年の本教職大学院創設以来、10年間にわたり「学校における実習」は、「理論と実践の融合」を具体的な教育活動によって示す場としてカリキュラムの中心に位置づけてきた。学校教育活動に関する基礎的な理解の上に、教科指導や生徒指導、学校・学級経営等の課題や問題に関して、自ら課題設定をし、実践、省察、改善を通して課題解決に主体的に取り組むことのできる資質・能力を培うことを目的としてきた。

平成30年度からは、この「学校における実習」を「アクションリサーチ」（以下、見出しを除く本文はARとする）と名称を変更した。それは、実習の目的や基本的な考え方は継承するものの、これまでも重視してきた研究的視点をより一層鮮明にし、教員として省察を繰り返すことのできる高度専門職性の育成を図り専門職大学院に相応しい人材育成を目指すためである。

## 3 「アクションリサーチ」の大要

「AR」は以下のⅠ～Ⅲで構成する

- ①生徒指導・教育相談を中心とするARⅠ（3単位）
- ②教科指導を中心とするARⅡ（4単位）
- ③学校運営・学級経営・地域連携を中心とするARⅢ（3単位）

の計10単位を修了要件として実施する。

そのほかに、外国人児童が在籍する教育現場を現地観察し、必要な教育力・指導力について体験的に学ぶ「外国人児童教育観察実習」（1単位、1、2年次に実施）と、学校における自然体験・生活体験活動に関する指導力を向上させるための「野外教育活動実習」（1単位、1年次に実施）、及び、独立行政法人教職員支援機構における「学校組織マネジメント研修」を「学校組織マネジメント実習」（1単位、現職教員学生対象）として、選択科目に設定する。

## 4 アクションリサーチⅠⅡⅢの到達目標

### （1）ARⅠ「生徒指導・教育相談を中心とするAR」

児童生徒の発達と実態を踏まえ、授業や学級経営等への参画を通して、生徒指導・教育相談に関する適切な指導方法と課題を明確にし、実践できる。

### （2）ARⅡ「教科指導を中心とするAR」

教科の特質を踏まえた課題解決のための効果的な指導方法を具体的に検証する。

### (3) ARⅢ「学校運営・学級経営・地域連携を中心とするAR」

#### ①現職教員学生

学校現場における教育課題を的確に把握し、教育目標を効果的に達成するための学校組織マネジメント力を身につけたミドルリーダーとしての資質を高める。

#### ②学部卒学生

学級の実態や特性を踏まえ、学級担任として適切な経営計画を立て実践できる経営力を習得する。

## 5 現職教員学生の「アクションリサーチ」履修について

ARに関しては、現職教員学生について「入学前の教職経験をもって当該ARとみなすことができる」ことから、下記の基準に基づいて教育委員会等の任命権者から推薦された現職教員学生に対しては、「AR」（必修）に十分に相当する教職経験（研修実績を含む）を積んできている場合においては、その教職経験を「AR」とみなす。ただし、「ARⅢ」（学校運営・学級経営、地域連携中心、3単位）の免除に関しては、「中堅教諭等資質向上研修（10年経験者研修）」を修了し、かつ、関連の実務経験の実績を個別に評価し、一定の水準に達しているとみなし得る者の場合のみとし、それ以外の者については学部卒学生等の場合と同様に、当該AR科目の履修を求める。

#### (1) 「ARⅠ」に関する免除

5年以上にわたり教諭として学級担任の経験を有し、かつ、教育委員会等が行う生徒指導・教育相談に関する研修等を135時間以上（あるいは、それに相当する研究発表等）受けている者について、その実績の評価に基づき「ARⅠ」を免除する。

#### (2) 「ARⅡ」に関する免除

10年以上にわたり教諭として学級担任の経験を有し、かつ、教育委員会等が行う教科指導・学級経営に関する研修等を180時間以上（あるいは、それに相当する研究発表等）受けている者について、その実績の評価に基づき「ARⅡ」を免除する。

#### (3) 「ARⅢ」に関する免除

20年以上にわたり教諭として学級担任、学年主任、教務主任等の経験を有し、かつ、「中堅教諭等資質向上研修（10年経験者研修）」（教育公務員特例法第24条）を含め教育委員会等が行う学校運営・経営、地域連携に関する研修等を135時間以上（あるいは、それに相当する研究発表等）受けている者について、その実績の評価に基づき「ARⅢ」を免除する。

なお、教職経験及び研修歴等の実績の評価については、入学希望者から提出された「校務分掌等勤務実績調書」「研修実績調書」、及び入学試験の結果等により、「AR」の免除の範囲を決める。

また、「ARⅠ」及び「ARⅡ」を免除された現職教員学生の「ARⅢ」は、1年次に行う。

## 6 アクションリサーチ計画基本プログラム

	実施時期	到達目標	主な内容
A R I 3 単 位	第 1 年 次  10 月 ・ 11 月	「生徒指導・教育相談を中心とするAR」  児童生徒の発達と実態を踏まえ、授業や学級経営等への参画を通して、生徒指導・教育相談に関する適切な指導方法と課題を明確にし、実践できる。	①学年に所属し、学級副担任として授業や学級経営に参画する。 ②観察と実践を通して各学年の「発達」と「児童生徒理解」についての理解を深める。 ③理論に基づく生徒指導・教育相談を充実させるための具体的な方策を習得する。 ④学級担任、生徒指導主任、学年主任、教育相談担当、養護教諭等との面談を通して、生徒指導上の諸問題と具体的な対応について事例研究をする。 ⑤小学校でのAR実施者はAR期間外に中学校ARを1日実施し、小中連携等の理解を深める。 ⑥生徒指導・教育相談の力量を高めるとともに、今後の研究課題を明確にする。
A R II 4 単 位	第 2 年 次  5 月 ・ 6 月	「教科指導を中心とするAR」  教科の特質を踏まえた課題解決のための効果的な指導方法を具体的に検証する。	①学年所属とする。 ②教科・領域で付けたい力を明確にし、授業観察、教材研究、教材開発、授業案づくり（単元構想）、授業実践、分析評価を行う。 ③学習指導における学級集団の在り方を学ぶ。 ④新しい教育課題に対応するための先進的な指導方法等の提案をする。 ⑤校内研修に参画し、組織的で効率的な研修推進についての理解を深める。 ⑥すべての教育活動に参画し、経営的実践力を高める。
A R III 3 単 位	第 2 年 次  10 月 ・ 11 月	「学校運営・学級経営・地域連携を中心とするAR」 【現職教員学生】 学校における教育課題を的確に把握し、教育目標を効果的に達成するための学校組織マネジメント力を身につけたミドルリーダーとしての資質を高める。 【学部卒学生】 学級の実態や特性を踏まえ、学級担任として適切な経営計画を立て実践できる経営力を習得する。	【現職教員学生】 ①教務主任の実務を経験することにより、経営構想、学年・学級経営、校務分掌、職員体制、学校評価等への視野を広げ、理解を深める。 ②校長先生の経営構想を踏まえ、次年度の自校のランドデザインを構築する。 ③校内研修や生徒指導等に積極的に参画し、教育経営全般におけるミドルリーダーとしての指導的な役割を果たす。 【学部卒学生】 ①学級経営理論に基づいた自己課題を設定し、実践を通して教育効果を検証する。 ②連携校の学校経営構想に基づき、広い視野からの実践的な学級経営力を習得する。 【現職・学部卒学生共通】 「社会に開かれた教育課程」を目指した家庭、地域との連携の在り方について理解を深める。

【選択実習】

	実施時期	実習目標	主 な 内 容
外国人児童教育観察実習	第1・2年次 5回	多文化共生社会における、外国につながる児童生徒の教育や、グローバル人材の育成を目指した多文化教育について、観察や支援等の実践を通して理解を深める。 学校体制や、教育内容、教育及び支援方法、子どもの様子や実態について体験を通して理解する。	①当該校における事情や教育環境について事前にレポートにまとめ課題を明確に持つ。 ②学校施設、学級の規模・設備、教育内容方法について理解をする。 ③校務分掌や職員体制等の学校運営・経営について理解する。 ④当該校の指導担当教諭とのチーム・ティーチングあるいは個別支援等の実践活動に参画し、子どもの実態や教師の指導方法について考察する。 ⑤訪問校毎に、実習で学んだことや自己課題について振り返りを行い、レポートを作成する。
野外教育活動実習	第1・2年次 2月	教育経営的視点から野外活動プログラムの再構築を図る。 実践的指導力を身につけた指導者としての「資格」を取得する。	①連携施設における「野外活動プログラム」におけるねらいと内容を理解する。 ②「野外活動プログラム」推進のための施設・設備の利用の仕方、指導者の配置や役割について、指導担当者とチーム・ティーチングによる実践活動を通して習得する。 ③教育経営的視点から「野外活動プログラム」を開発し、作成する。 ④指導者としての資格を習得する。
学校組織マネジメント実習	現職教員学生 1年次 9月	学校組織マネジメントの理論や方法を身につけ、校長の経営理念のもとに戦略を構築したり、学校内外の資源を活用したりして、学校組織の活性化と特色ある学校づくりに向けた学校組織マネジメントプランを作成することができるミドルリーダーとしての資質・能力を高める。	①学校組織マネジメントに関する理論や手法を理解する。 ②現任校等の課題解決に効果的なマネジメント手法を選択することができる。 ③学校組織マネジメントのケーススタディを行い、具体的かつ効果的な方法を「学校組織マネジメント実習報告書」として作成する。 <註> 1) 令和5年 月 日 ( ) から 月 日 ( ) までの独立行政法人教職員支援機構における「令和5年度学校組織マネジメント指導者養成研修」の全日程を受講する。 2) 上記受講期間中には、講義終了後に毎日実施する他大学教職大学院との合同リフレクションに参加する。